

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201981		
法人名	社会福祉法人七峰会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	〒036-8255 青森県弘前市若葉2丁目15		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

水分量の目標を決めてこまめに提供し、運動の実施、栄養の確保や快適な排泄を目指し、健康で安心した生活ができるように、また、認知症の改善に努めている。できることを継続できるよう、またできることを増やし生活への張りや楽しみ、自信につながるように支援している。通学の学生や犬の散歩の方など敷地内を行き来し、挨拶を交わすこともあり地域の方と交流を持っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅街に位置し、敷地内を学生等が通学する姿がみられる。屋上からは、広大な岩木山を眺められ、自然に囲まれた環境である。地域密着型サービスとしての役割を理解し、地域のニーズに即し、町内会での夏祭り参加の他、冬場は一人暮らしの方の雪かき支援等、地域の一員として非常に貢献している。排泄の自立に向けた取り組みは何よりもご本人の生活のほりや、生きがいにつながっていると思われる。また、食事への取り組みについても、ご本人が選択できるように配慮され、目で見ると感じる楽しみ、そして家庭的な食事提供となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内やユニット内にも掲示している。引き継ぎ時に読み合わせをし職員の意識を高めている。	理念は、地域密着型サービスとしての役割を明確にし、事業計画に盛り込むだけでなく、理念の実践及び評価を適切に取り組んでいる。地域及び利用者のニーズに即し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内を通る方との挨拶や、一人暮らしの方の雪かき、利用者と一緒に夏祭りや敬老会などへの参加などを通し、地域の一員として交流をしている。	町内会とのつながりが強く、夏祭りの参加や、夏場は集会所での体操を行い、冬場は一人暮らしの方の雪かき等、地域の一員として貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に様々な行事への参加を通して地域の方と交流に努めている。運営推進会議を通し認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議では、活動状況やサービス内容を報告している。町会の方やご家族の意見を求めサービスの向上に活かしている。	地域住民代表者・市町村担当者・ご家族及びご本人も参加し、定期的に運営推進会議を開催している。状況報告はもちろんだが意見交換が双方向で行われサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り合って協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議以外でも、日常的に色々な事柄について質問及び意見交換を行っており、必要に応じてアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修での学習や普段から行動を制限したり身体拘束をしないケアに努めている。夜間以外の玄関の施錠はしていない。	身体拘束をしないケアについて勉強会を開催するなど職員で学習している。身体拘束をしないための工夫やアイデアを職員で出し合い、拘束はしないという取り組みを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の内部研修で学習し虐待につながらないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内に利用している方がいるので、制度について理解できるようにしている。必要な方は活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容、重要事項説明書を説明し納得を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が話やすいように雰囲気作りに努めている。家族には面会時に近況報告をしたり、意見や要望を聞いている。玄関には意見箱を設置している。	面会の際に、職員からご家族に声をかけ、利用者の状況報告や、意見を求めるように取り組んでから直接お話してもらえるようになっている。利用者へは、本人の意見の尊重を重視し、本人の意見を表せるような声掛けの工夫や、意思決定ができるような働きかけを日々行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引き継ぎや午後のミーティングで日常的に意見を交換し反映させている。	1日2～3回は職員同士の意見交換の機会をつくり、職員のアイデアや改善点などを話しあい、職員間で検討している。職員同士や、管理者とのコミュニケーションの良い機会となっており運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の努力を認め向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や個人の力量を把握し年間計画に研修が組み込まれている。また、受けたい研修があれば起案することで受ける機会を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加や実習生の受け入れ、同じ地区の施設との交流の機会を通してサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から本人が困っている事、不安な事を聞き情報収集に努めている。会話や表情、言動などから不安などを推察し、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から本人や家族が困っている事、不安に思っている事を聞き情報収集に努めている。安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で本人や家族の意向を確認して職員間で共有している。また、都度の情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は役割を持ち、本人が得意とする畑仕事やおやつ作り、裁縫など職員が教わることもあり関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告や連絡は密に行い相談しながら安心した暮らしが出来るように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通っていた病院や美容院に継続して出かけられるように支援している。併設のデイサービスと敷地内の有料老人ホームの知り合いとの関係も途切れないよう支援している。	家族の協力を得ながら、行きつけの美容院に通ったり、主治医への受診対応等を行っている。ご本人の会いたい人や行きたい場所等の把握に努めるようにし、できるだけ希望をかなえるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や役割を通して利用者同士で手伝ったり教えたり、気遣いの場面も見られるので、関わりを把握し支え合える関係作りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も担当者や家族との連絡を取り合い状態が落ち着くまで支援している。状況によっては他のサービスへの働きかけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で希望や意向の把握に努めている。表情や言動の観察をし、特に意思表示ができない方はより注意深く観察し本人本位になるよう検討している。	職員の日々のケアやモニタリングの中から利用者の思いや希望を汲み取る努力をしている。利用者一人ひとりに担当職員がいることで、寄り添う機会が多くなり、より本人本位に自立支援にむけて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りや担当者からの情報からできるだけその人の望む暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調観察や活動や役割への参加状況、会話や表情などから職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人への意向確認と家族には面会時や受診後の連絡により状態を報告しケアのあり方について相談している。職員でも話し合い、また看護師からは健康管理について指導を受け介護計画を作成している。	利用者及びご家族より希望を聞き、また必要に応じてかかりつけ医や看護師等からの意見をもとに、職員で協議し介護計画の作成に取り組んでいる。毎月のモニタリングにて、適切なタイミングで見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をそれぞれのケース記録に記入し職員間で共有している。課題が上がれば介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物、散髪、自宅への外出など本人や家族の状況に応じて個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の行事へは本人や家族の意向を確認し参加をしている。民生委員や町会の方との関係作りに努め、参加時には楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し家族や本人からの希望があった場合には尊重しかかりつけ医との関係が切れないよう支援している。体調変化があった場合には指示を仰いでいる。	医療機関への受診はご本人やご家族の希望するかかりつけ医への対応を行っており、安心感につながっている。また、同法人の看護師との連携も図られており、継続的な支援につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には受診後の報告をし、日常の情報は定期的に伝え、健康管理の支援を受けている。日中の状態変化については併設のデイサービスの看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族や病院関係者と情報交換し利用者が安心して過ごせるように、また早期退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入所時に説明をしている。また体調変化時などにも都度報告し、話し合いをしている。	利用時に、医療依存度が大きくなった場合の住み替えについて説明を行っているが、可能な限り、受診等の支援も対応しており、密に話し合いを行っている。可能な範囲内でご本人やご家族の意向に沿えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。定期的に救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し町会の方にも参加していただいている。運営推進会議や行事での関わりを通して地域の方との関係作りをし、協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施している。町内会の方にも参加協力いただき、利用者の実情を把握していただき、有事に備えるように働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いには十分に配慮している。利用者の表情や言動を観察し、誇りやプライバシーを損ねないように対応をしている。	声掛けは利用者の尊厳に留意しながら親しみが感じられる。職員は常に自分たちの対応が人格を意識した対応になっているのかを確認しあいながら取り組んでいる。特に羞恥心に配慮し、誇りやプライドを傷つけないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食時の選択、衣類選び、飲み物の選択や外出についてなど日々の会話や茶話会などで本人の希望を引き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを大切にし、役割の支援や入浴、活動参加などの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院への外出や化粧品の購入、場面に応じて洋服選びなどおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談して献立をたて作る日を月2回設けている。みそ汁やあえ物、サラダなどは作ったり、畑から収穫した野菜などを使って作っている。準備、食事、片づけを利用者と一緒に行っている。	水曜日はパンの日だがそれ以外の、昼食時のメイン料理が、その日の気分で食べる直前に選択ができるようになっている。調理や準備・片付け等、利用者それぞれができる事をお願いし、やりがいとなっている。畑やプランターで収穫した野菜等も活用され楽しみや喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には法人施設の栄養士の立てた献立を提供している。食事摂取量や水分摂取量の把握をし、個別に好みの物を購入し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方についても観察し、介助を要する方へは毎食後口腔ケアを行い個々に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿取りパットの使用はしているが、おむつを使用しない形で排泄の自立に向けて支援している。排泄のパターンの把握に努め失敗が減るよう、トイレでの排泄ができるよう支援している。	入居と同時に、オムツを外し排泄の自立支援の取り組みを行っている。ご本人の羞恥心に配慮して耳元で声をかける事や、失敗しても落ち込まないように配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には冷水を提供し、水分摂取量の目標を定めている。運動する機会を設け、また寒天やファイバー、乳製品などを個別に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の前に声掛けをし確認している。拒否があれば時間をおいて声をかけたり、午前や午後の希望に合わせてたり状態により翌日にするなど個々に応じた支援をしている。	入浴日の午前午後と入浴を実施し、一人週3回の入浴を実施している。入浴拒否がある場合においても、声の掛け方を工夫したり、足浴を実施する等、ご本人の意向を踏まえながら臨機応変の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に努め、状態に合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師から薬についての説明を受け職員間で情報を共有している。服薬変更時には症状の変化について確認し報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて味噌汁作り、洗濯たたみ、食器拭き、ごみ集め、園芸など役割を分担している。また、裁縫や読書、歌、外出への支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブに出かけたり受診の帰りに買い物や食事をするなど希望を確認し支援をしている。町会の行事参加でも希望を確認し参加している。家族との外出では、連絡を取り合い安心して外出できるよう支援している。	ご本人の意向を確認した上で、月1回の外出支援や日常的な買い物等の支援、またご家族とのドライブや美容院の際に食事をされてくるなどご本人の楽しみとなっている。また町内会の日帰り温泉旅行への参加等、職員だけでなくご家族や地域の方々との協力により実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、家族との相談をしながら少額の管理をして支払い時に支援をする方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にかけられるように支援している。日頃から名前や文字を書く機会を作り、能力の維持に努め、年賀状を出すなど支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは1日2回の掃除を行い、汚れていれば都度掃除し清潔に努めている。タペストリーやホールの装飾や作品作りにおいて季節感が感じられるように工夫している。居室、廊下、脱衣場の温度調整に気を付けている。	共用スペースは、食堂や居間等空間がわかかれており、思い思いの場所で過ごすことができる。利用者と一緒に作成した装飾品や行事の写真に囲まれ、また心地よい音楽と食欲をそそる香りが感じられるなど、生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの椅子の位置が決まっており落ち着く場所にはなっている。ソファや小上がりでは、気の合う方で座ったり一緒にテレビ視聴を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇、馴染みのタンスや椅子などの家具などを持ち込んで、本人が安心して過ごせるように工夫をしている。	居室内は、馴染みのテーブルやソファや写真等を配置し、本人の意思を尊重しその人らしく過ごせる空間になっている。使い慣れた日用品に囲まれつつ、ご本人が安心して過ごせるような配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字を読める方がトイレや居室に行くことができるように表示をしている。トイレには立ち上がりや移動が安全にできるように手すりをつけている。歩行器を使用する方が通れるように配置に配慮している。		